多治見自警団（岐阜県）

岐阜県多治見からまいりました多治見自警団団長の松島でございます。よろしくお願いします。

活動地域の紹介

まず多治見の紹介をさせていただきます。私たちが活動する多治見市は昭和 15 年に誕生し、古くから陶磁器やタイルなど美濃焼産地として発展したことで、市内には個性あふれる美濃焼が並ぶショップやギャラリー、手軽に陶芸が体験できる作陶施設も充実しており、まさに陶都と呼ぶにふさわしい美濃焼文化が息づいております。

平成 19 年８月には国内最高気温 40.9 度を記録して以来、日本一暑いまちとして注目され、やなせたかしさんデザインのマスコットキャラクター「うながっぱ」も観光客誘致の一翼を担っております。

また日本の中心にあり、人口 11 万の名古屋市のベットタウンです。我々はこの地域でお世話になってお仕事をさせていただいているという観点から自警団を結成しました。

団体概要

平成 17 年９月の発足当時は 62 社、280 名でしたが、現在では 110 社。個人も入っていただけるようになって 478 名で 12 ルートを３名１組で夜の９時から 10 時まで、約４キロを歩いて巡回しています。

コンセプトとしては、「自治体が、警察が何かしてくれるのかを問うなかれ」「自治体に、地域に対して何ができるかを問え」「事業所を従業員をともに守ろう」です。自分たちの家族、会社、自分たちを守るために企業を母体とした自警活動をしています。

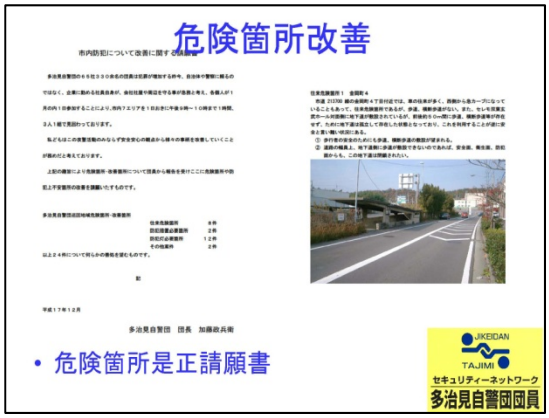
私も経営者ですが、従業員の皆さんに終業後また会社に戻ってきて歩いて巡回をやる、そんなことを言えるのかという話もあり、青パトで回ったらどうだという意見も多くありました。躊躇する声も多くあったのですが、初代の団長が、「絶対に徒歩でやる」「歩いてやらなければ意味がないんだ」というリーダーシップの下、社員に相談しましたら、「社長いいじゃない、それやりましょう」「おもしろい、いいことだからやりましょう」ということで発足しました。それ以来８年間、夜９時から 10 時まで歩いて巡回しています。

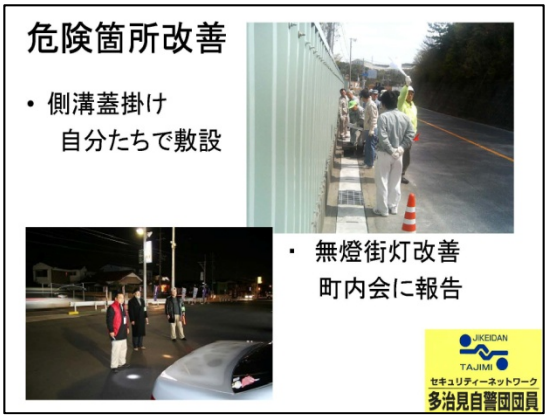
活動（事業）内容

活動について発表させていただきます。活動の中心は巡回ですが、活動を続けていくため、年２回の総会で優秀団員の表彰をしています。

巡回パトロールですが、現在は市内 12 コースとなっています。班長８名を立て、１個余分に班があるのですが９班 12 コース。この地図は多治見市内ほとんど全域を網羅しています。月水金は夜９時から 10 時まで３人１組で歩いています。

歩いていると、「いつも車で通っているんだけど、ここは危ないね」とか、「ここは側溝の蓋がないよ」とかいう話が出てきます。平成 17 年には市長に対して危険箇所の是正請願書を取りまとめて 20 数件の請願をしたのですが、ほとんど市は動いてくれませんでした。それで側溝の蓋掛けを、建設業者もおりますし、岩盤会社もおりますので自分たちでやってしまいました。

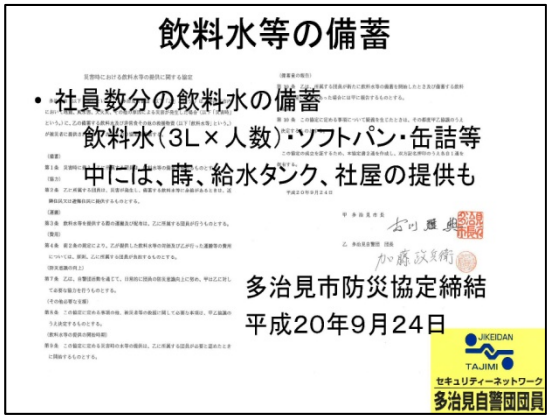




また、街灯が切れていたりしますと町内会に報告して、直していただいたり、放置自転車は警察にお願いして処理していただいたりということもしています。

平成 18 年には､中津川市の廃屋で殺人事件がありました。一昨年、ある地域で廃屋が多くなったという声を受けて廃屋調査をしました。県のほうでは、かなり難しいと言われたのですが、関係機関も熱心に動いてくださって２棟を撤去することができました。

地域の関係のある団体のイベントにも参加しています。その時に飲料水を自分たちの社員の分だけでも溜めておけば地域の人と発災があったときに分かち合えるのではないかということで、飲料水３リットルの人数分と缶詰等を用意しています。なかには薪や給水タンクもいいよと言う人も出てきました。いま多治見市と防災協定を結んでいます。



その他、コミュニティーＦＭ「ＦＭたじみ」に毎月最終水曜日、団員の社員さんや個人の方に５分間、巡回中の話題を話していただいています。また「ひろた基金」と銘打って、被災地の産業である漁業のお手伝いにならないかということで、１口１万円で募金を募り、昨年はワカメ 147 口分、今年はホタテを 208 口分購入させていただきました。

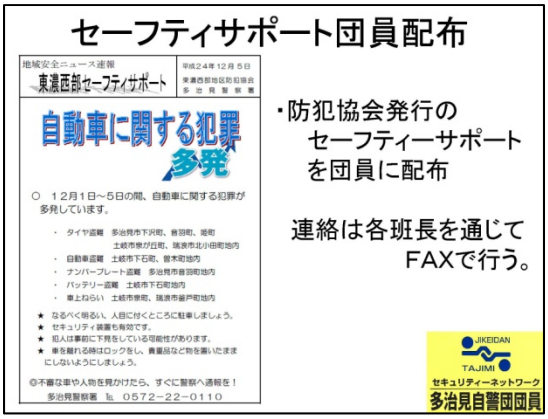
災害時一時避難所活動の提供箇所は 38 箇所です。昭和 56 年以降の建屋はとりあえず耐震構造になっているということですので、耐震構造になっている建屋と用地を提供していただくということで看板を設置しています。

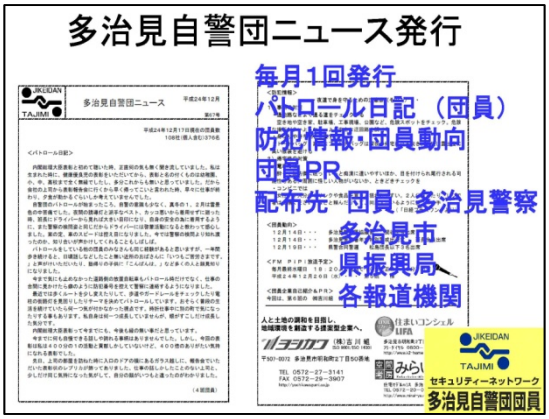
活動の特長

ここからは対内的な活動です。年１回総会を行って各班１団員を表彰しています。

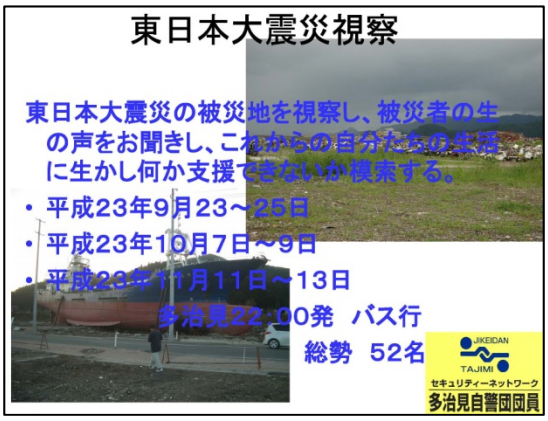
これは巡回という意味ではなくて、団員の意識向上のためにマグネットシートを戸口に貼ったり車両に貼付したりして使っています。このデザインは泥棒がセキュリティシステムと間違ってくれるようそれらを模したものにしています。

また、防犯協会さんが発行している「セーフティサポート」を、団員にファクスで配っています。月に１回、「自警団ニュース」を発行して団員さんからパトロール日記を１面書いていただいて、防犯活動や班員の会社の紹介などをし、それを団員、警察署、多治見市、県の振興局、報道機関へファクスで送っています。





先ほど「ひろた基金」というお話をしましたが、東日本大震災では、何か我々でできないかということで団員の研修として３回、10 時間かけてバスで 52 名、行ってきました。行き先は広田湾の広田という町です。避難所となって 70 名が避難していたという慈恩寺さんで、団員研修としてお話を聞き、これから何かできないかということで「ひろた基金」ができました。



そして、防災のことにも取り組んでいこう、多治見の町は自分たちで良くしていこうということで、いま防災意見交換会を行っていて、そこから一時避難所という話が出てきて、やっております。また多治見市防災マップを更新していますので、そこで自分たちの防災マップを活用していく活動をこれからもしていこうと思っております。

活動効果及び今後の課題

このような活動の中でいろいろ賞をいただき、去年は内閣総理大臣表彰をいただきました。これは団員のために気持ちの励みになることで本当にうれしく思っております。

新聞など各報道機関とも意見交換会などを行っています。そのつど新聞発表をしながら、話題を取り上げていただいて外にもＰＲし、団員の皆さんが本当に誇りを持てるような活動をしていきたいと

考えております。

我々は、歩き出した頃は本当に、「この人たち何？なんかチョッキ着て歩いていて」というふうに不審者に間違えられたのですが、いまは本当に「ご苦労さま、がんばってね」と声を掛けていただきます。それが本当に自分たちの活動の源になるのだなと感じています。これからもがんばってまいりますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

質疑応答

●質問　いまお話を聞きまして、大変ご苦労さまです。青パトの今後の購入はないのかということと、自警団という形の活動の中で警察との連携、また消防署、また地区との連携についてお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〇回答　青パトを購入するつもりはありません。先ほども申しましたように、最初は歩いて回ることに躊躇しました。青パトでいいのではないかいう話も出たのですが、それを今からやってしまいますと、みんな流れてしまい、巡回をやらないようになるということかなと考えておりますので、青パトを購入するつもりはありません。

それから警察とは密な関係を持っています。これからの課題として一つあるのは、やはり地域の方々との連携です。個人でそれこそ夜回っておられる方がこれから一緒に回れるといいなというのが１つの課題です。消防とはそこまでは連携は取っていません。

●質問　多治見自警団が他の団体と違うのは、事業所の方々の集合体であるというところですよね。仕事と防犯活動の両立というのは大変ご苦労なさるところと思うのですが、どのような気遣い、心配りをなさっているのでしょうか。

〇回答　私も回っております。社長が一緒に回ったりとか、あと総会に皆さん来ていただいて、そこでパーティーをやるとか、そのような工夫をしています。またこれを続けることができたのは、私は月に１回、いつもだいたい第１月曜日に回るようにしているのですが、400 人の団員がいてＡさんは月に１回だけでいいんです。無理のない活動なので続いていると思っています。

最初にも申し上げましたように、そういう活動をけっこう事業所の社員さんも求めているということがあるのかなと。我々経営者のほうは、そんなことをやらせたら「なんや」と言われないかという思いがあるのですが、面倒くさいなと言いながらも皆さん責任と自覚を持ってやってくれております。そこで僕らとしても、こういう会に出てきて発表してきたよとか、月１回のニュースで話を出すとか、そういういろんな活動をしながら意識を保っていただくように我々班長が一生懸命やっています。